

問6	データ管理（IT サービスマネジメント）	(H24 秋・FE 午後問 6)
----	----------------------	------------------

【解答】

〔設問1〕 aーオ, bーカ, cーキ, dーイ, eーエ

〔設問2〕 イ

〔設問3〕 エ

【解説】

IT サービスマネジメント分野のデータ管理に関する問題である。この問題ではデータのバックアップを取る磁気テープ本数の棚卸しの考え方が問われている。問題文に従って、棚卸し時の磁気テープの移動について追っていけば正解できる問題なので、確実に解答をしてもらいたい。また設問 2、3 は、磁気テープ保管の運用について、機密保護の観点から管理方法などを考える問題である。解答群の中には紛らわしい選択肢はないので、設問の意図を理解すれば、解答しやすい設問である。

〔設問1〕

図3「今回の棚卸結果報告書」の空欄を埋める問題である。

棚卸しの手続(1)、(2)の記載に従って空欄の数字を考えていく。

- ・空欄 a：廃棄した本数は、(1)②より、「不要となって記録内容を消去して廃棄した本数」である。不要になったテープは、使用済みテープ保管箱に入っており、記録消去と同時に廃棄本数に計上している。
まず、図1「前回の棚卸結果報告書」から、使用済みテープ保管箱には8本のテープがあったことが分かる。次に、図2「棚卸対象テープの移動状況」から、使用済みテープ保管箱の本数を確認すると、7/25に「不要となったテープ5本を使用済みテープ保管箱に移動」している。この時点で使用済みテープ保管箱のテープは、8+5=13本である。その後、8/15に「使用済みテープ保管箱内の全テープについて記録内容を消去」しているので、廃棄した本数は13本となる。したがって、aの正解は（オ）である。
- ・空欄 b：未使用テープ保管箱の本数を求める。図1から、未使用テープ保管箱には12本のテープがあったことが分かる。また、図2から、9/12に「期末処理用のテープ20本を新規購入」している。つまりこの時点で12+20=32本となる。その後、10/6に「期末処理のため未使用テープ18本を使用」したので32-18=14本となる。したがって、bの正解は（カ）である。
- ・空欄 c：使用済みテープ保管箱の本数を求める。図1から、使用済みテープ保管箱には8本のテープがあったことが分かる。しかし、図2から、8/15に使用済みテープ保管箱内のテープの記録内容を全消去しているので、この時点では0本である。その後、10/2に「不要となったテープ20本を使用済みテープ保管箱に移動」しているので20本となる。したがって、cの正解は（キ）である。
- ・空欄 d：社内部門（貸出中）の本数を求める。図1では、社内部門（貸出中）は4本であった。調査部に2本と監査室に2本貸していた合計4本である。図2から、9/21に「監査室から貸出中のテープ2本を返却」されたことが分かるので、社内部門（貸出中）の本数は4-2=2本となる。したがって、dの正解は（イ）である。
- ・空欄 e：今回の棚卸本数を求める。まず図3(2)移動記録の前回の棚卸本数には、図1(2)移動記録の今回の棚卸本数の1060が入る。そこに、（+）追加した本数と（+）搬入した本数を加算し、（-）廃棄した本数と（-）搬出した本数を減算すると1060+20+0-13(a)-21=1046本となる。したがって、eの正解は（エ）である。

〔設問2〕

本文中の下線部①「返却予定日を定めて適切な管理を実施する」について、実施すべき管理の内容として適切な答えを解答群から選ぶ。これは、今回の棚卸し時に、調査部に貸し出した機密情報を記録したテープ1本の所在が不明となり、棚卸結果報告の翌日にシステム部のヘルプデスクで発見されたことに起因する。事故再発防止に向けて、返却の手続が十分に機能してないことや、「利用が終わったテープは速やかに返却する」という今の規定だけでは不十分であることから、「返却予定日を定めて適切な管理」をするための改善策を考える。

ア：返却予定日を次回の棚卸日より後の日付にすると、返却は最長で棚卸実施サイクルの3か月よりも先になる。今の規定である「利用が終わったテープは速やかに返却する」に反するので、適切でない。

イ：実際にテープの管理をしている運用課が返却予定日を管理するのは望ましい。また超過時には申請者に再申請などを促すことで、返却がまだであることを意識してもらえ、返却を忘れていた場合の返却につながる可能性がある。したがって適切といえる。

ウ：申請者に十分な余裕をもった返却予定日を設定させることは、返却予定日の超過が発生しにくい規定ではあるが、「利用が終わったテープは速やかに返却する」に反するので、適切でない。

エ：現状、申請者のテープの取扱いが適切に行われていない状況なので、申請者に返却予定日の管理を委ねることは、適切でない。
したがって、正解は（イ）である。

〔設問3〕

本文中の下線部②「根本的な問題を含んでいる」ことについて、根本的な問題とは何かを解答群から選ぶ。問題文中にあるように、今回のテープの所在不明は、機密情報保護の点で問題があるとしている。そもそも「テープに記録された機密情報の管理は、全社の情報管理手続に従い、承認された部門の社員だけが複写を許可されている」。にもかかわらず、調査部員の依頼で今回ヘルプデスク担当者が機密情報を複写したことは、機密情報保護の点で反している。したがって、正解は（エ）となる。

ア：調査部から、複写を承認されていない部門のヘルプデスクに複写依頼をしたことが問題であり、電子メールや電話という依頼手段の問題ではないので、適切ではない。

イ、ウ：承認されていない部門が複写したこと事体が誤りなので、複写の事後報告を実施したか、しないかが問題ではない。したがって、適切ではない。